

平成28年 1月 8日

アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

・健康なからだ ・おもいやりの心 ・たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 理由 | 自己評価 |
|----------------------|---|------|
| ① 保育の計画性 | 園の教育方針及び、教育課程を共通理解し、日々の保育に活かすことを心掛け、実行に努めたため。 | A |
| ② 保育のあり方 ・ 幼児への対応 | 一人ひとりの子どもの表現を受け止め、子どもの立場に立った視点を尊重した保育を展開しているため。 | A |
| ③ 教師として資質 能力、適正等 | 教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたため。 | A |
| ④ 保護者への対応 | 保護者の意見、要望などについては適時対応し、受入れ、改善していくように努力しているため。また、保護者も、園・職員に対して協調的である。 | A |
| ⑤ 地域の自然や社会 との関わり | 園行事等において地域住民を招待し、近隣の中高生との連携や関わりなどはあるが、地域の自然との関わりは少ない。 | B |
| ⑥ 研修と研究 | 園内研修及び幼稚園協会等の研修に参加し、職員間で教育課程をテーマとした研修に取り組んだ。また、大学機関との研究の連携を推進し、保護者への周知を行った。 | A |
| ⑦ 外部アンケート | 回答率も93%になり、回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かったため。また、改善できる点もあるので、今後努力していきたい。 | A |

* 結果の表示方法 A 十分達成されている
 B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が充分でない
 D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

本年度、浜松私立幼稚園協会における2年継続研究のまとめの年度であり、本園の重点的課題の一つである「幼児の運動あそび」について、保育方法及び健康医療の分野から研究を進めてきた。具体的には、朝・帰りの時間を有効的に使い、運動あそびを実施し体力づくりを推進すると共に、全教員の意識を高め、教育環境の強化を図った。また、戸外遊び・室内あそび・体育器具などを積極的に取り入れた保育を充実させることで、さらに「運動好きな子」を育てる保育を推進した。健康医療系大学の継続調査研究結果でも前年度比よりも向上が見られるという報告を受けた。

日々の保育については、学年だよりの工夫や子どもの様子をより詳しく保護者に伝えられるように改善した。同時に個人のシールノートへのコメントの欄は、担任から個々に一ヶ月の育ちの様子を伝え、また、家庭からの様子も園にお知らせして頂ける欄を設けたことで、家庭と園との連携を密にとる方法が定着した。

今後も本年度の子どもの育ちから、子どもを取り巻く教育環境の発展、並びに保育内容の創造に努力することを確認する。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---------------------------------|--|
| 教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解を図る | 教育要領の内容等、全教職員で理解し、毎日の保育に添わせるように話し合いを密に行っていく。 |
| 園庭での園児の遊び・安全管理の共通理解 | 子どもたちの遊び方、安全管理について全教職員で再確認をしながら話し合いを出来るだけ多く持っていく。過去にあった怪我などの事故報告書を教訓とし、職員の意識を高め、園児の安全確保に努めていく。 |
| 保護者に幼稚園の活動をより良く知ってもらうための広報活動の充実 | 幼稚園における行事や活動及び、園児の成長等を広報することで、幼稚園で育つ子どもの姿を知ってもらい、子育て支援活動の一環として情報を発信していく。また、保護者との意思の疎通をより活発に行えるよう、一層の努力をする。 |

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
・健康なからだ ・おもいやりの心 ・たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 理由 | 関係者評価 |
|--------------------|------|---|-------|
| ① 保育の計画性 | A | 園の教育方針及び、教育課程を共通理解し、日々の保育に活かすことを心掛け、実行に努めたため。 | A |
| ②保育のあり方 ・幼児への対応 | A | 一人ひとりの子どもの表現を受け止め、子どもの立場に立った視点を尊重した保育を展開しているため。 | A |
| ③教師として資質 能力、適正等 | A | 教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたため。 | A |
| ④保護者への対応 | A | 保護者の意見、要望などについては適時対応し、受入れ、改善していくように努力しているため。また、保護者も、園・職員に対して協調的である。 | A |
| ⑤地域の自然や社会との関わり | B | 園行事等において地域住民を招待し、近隣の中高生との連携や関わりなどはあるが、地域の自然との関わりは少ない。 | B |
| ⑥研修と研究 | A | 園内研修及び幼稚園協会等の研修に参加し、職員間で教育課程をテーマとした研修に取り組んだ。また、大学機関との研究の連携を推進し、保護者への周知を行った。 | A |
| ⑦外部アンケート | A | 回答率も93%になり、回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かったため。また、改善できる点もあるので、今後努力していきたい。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

本年度、浜松私立幼稚園協会における2年継続研究のまとめの年度であり、本園の重点的課題の一つである「幼児の運動あそび」について、保育方法及び健康医療の分野から研究を進めてきた。具体的には、朝・帰りの時間を有効的に使い、運動あそびを実施し体力づくりを推進すると共に、全教員の意識を高め、教育環境の強化を図った。また、戸外遊び・室内あそび・体育器具などを積極的に取り入れた保育を充実させることで、さらに「運動好きな子」を育てる保育を推進した。健康医療系大学の継続調査研究結果でも前年度比よりも向上が見られるという報告を受けた。

日々の保育については、学年だよりの工夫や子どもの様子をより詳しく保護者に伝えられるように改善した。同時に個人のシールノートへのコメントの欄は、担任から個々に一ヶ月の育ちの様子を伝え、また、家庭からの様子も園にお知らせして頂ける欄を設けたことで、家庭と園との連携を密にとる方法が定着した。

今後も本年度の子どもの育ちから、子どもを取り巻く教育環境の発展、並びに保育内容の創造に努力することを確認する。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---------------------------------|--|
| 教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解を図る | 教育要領の内容等、全教職員で理解し、毎日の保育に添わせるように話し合いを密に行っていく。 |
| 園庭での園児の遊び・安全管理の共通理解 | 子どもたちの遊び方、安全管理について全教職員で再確認をしながら話し合いを出来るだけ多く持っていく。過去にあった怪我などの事故報告書を教訓とし、職員の意識を高め、園児の安全確保に努めていく。 |
| 保護者に幼稚園の活動をより良く知ってもらうための広報活動の充実 | 幼稚園における行事や活動及び、園児の成長等を広報することで、幼稚園で育つ子どもの姿を知ってもらい、子育て支援活動の一環として情報を発信していく。また、保護者との意思の疎通をより活発に行えるよう、一層の努力をする。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

・アンケート項目「お子さんの事で保護者と連絡を取っていますか」について、「はい」という回答は去年度に比べて向上していますが、さらに来年度も継続して園と家庭との連携を深めてほしい。また、アンケート結果の掲示公開のお知らせを手紙で通知してみてもどうか。

・園の行事だけでなく日々の活動やあそびに参加して頂ける父親、地域のボランティアの方を募ってみてどうか。

・前年度のコメントも反映して頂き、日々のクラスの様子や運動を積極的に取り入れて下さり、感謝しています。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取組み状況 |
|---------------------|------|--|
| ① 保育の計画性 | B | 指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。また活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。 |
| ② 保育のあり方 幼児への対応 | A | 放課後、全体研修の会をもっている。また、各学年で次週の保育について話し合い、幼児への対応も意見交換し進めている。 |
| ③ 師として資質 能力、適正等 | B | 自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、幼稚園教諭の資質向上に努めている。 |
| ④ 保護者への 対応 | B | 送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応している。 また、年々増えていく保護者からの問い合わせに、子どもの保育にさしさわりのない範囲で最大限に答えていけるよう努力を続ける。見える保育を心掛け、写真掲示やホームページなどで子どもたちの日常の様子が見える取組みも今後続けていく。 |
| ⑤ 地域の自然や 地域との関わり | B | 幼稚園バスに乗っての園外保育や、アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れる。 また地域の介護センター訪問や、地域の小学生との交流を通して、地域に親しみ、社会性を育てている。 |
| ⑥ 研修と研究 | B | 毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。 また、年間目標に沿った個人研究をすすめている。3学期には、一年を振り返り、今後の課題を見つけていく。 |
| ⑦ 外部アンケート | B | 回答率が86%になり、前回より上がっている。また回答内容も概ね良好である。しかし、課題も見つけることができるため、今後話し合っていきたい。 |

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子ども一人ひとりの成長を考えながら、子どもが充実できる保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------------|---|
| 丈夫なからだに | 年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、机や水場等の消毒等環境にも配慮し、新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。 園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。 |
| 社会・地域とのかかわり | 特に年長児の小学校との交流を通して、進学への期待と学習意欲を高める。介護施設などへの訪問の機会をなるべく設けて、世代を超えた交流を進める。また地域への行事の参加を園としても各家庭に促していく。 |
| 安全管理 | 園庭の遊具など、どれをとっても100パーセント怪我をしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切な物。幼稚園でのあそびが、必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、日々職員全員で認識し、確認しあっていく。 |

平成28年1月12日

アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に
- 望ましい生活習慣の身についた子に
- 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に
- 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取組状況 | 関係者評価 |
|---------------------|------|---|-------|
| ① 保育の計画性 | B | 指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。また活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。 | B |
| ② 保育のあり方 幼児への対応 | A | 放課後、全体研修の会をもっている。また、各学年で次週の保育について話し合い、幼児への対応も意見交換し進めている。 | A |
| ③ 師として資質 能力、適正等 | B | 自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、幼稚園教諭の資質向上に努めている。 | A |
| ④ 保護者への 対応 | B | 送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応している。また、見える保育を心掛け、写真掲示やホームページなどで子どもたちの日常の様子が見えるよう取り組んでいる。 | B |
| ⑤ 地域の自然や 地域との関わり | B | 幼稚園バスに乗っての園外保育や、アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れる。 また地域の介護センター訪問や、地域の小学生との交流を通して、地域に親しみ、社会性を育てている。 | A |
| ⑥ 研修と研究 | B | 毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。 また、年間目標に沿った個人研究をすすめている。3学期には、一年を振り返り、今後の課題を見つけていく。 | B |
| ⑦ 外部アンケート | B | 回答率が86%になり、前回より上がっている。また回答内容も概ね良好である。しかし、課題も見つけることができるため、今後話し合っていきたい。 | B |

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子ども一人ひとりの成長を考えながら、子どもが充実できる保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------------|---|
| 丈夫なからだに | 年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、机や水場等の消毒等環境にも配慮し、新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。 園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。 |
| 社会・地域とのかかわり | 特に年長児の小学校との交流を通して、進学への期待と学習意欲を高める。介護施設などへの訪問の機会をなるべく設けて、世代を超えた交流を進める。また地域への行事の参加を園としても各家庭に促していく。 |
| 安全管理 | 園庭の遊具など、どれをとっても100%怪我をしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切な物。幼稚園でのあそびが、必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、日々職員全員で認識し、確認しあっていく。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

放課後、先生達で集まり、全体研修をおこない、保育について話し合い、園児への対応など意見交換をしながら、日々進めている姿が見える。

保護者からの質問や相談も、年々多様化し増えてきている中、それにうまく対応できている先生と、そうでない先生との差がある。

お遊戯会など、先生達の努力と指導力はすごいと思う。どんどん若返って行って良い面もあるが、ベテランの先生の存在も大切だと思う

介護施設などへの訪問は、皆さん楽しみにしていて、年齢を超えた交流が、お互いにとっても良い効果があるので、訪問回数も、もっと増やしてほしい。

近所の砂山広場に、幼稚園の園児が遊びに来た時、子どもたちの声や笛などがうるさいというクレームが時々あるので、近隣に一声かけてから来れば、クレームは出ないのではないのでしょうか？

幼稚園の様子は、今の感じで良いと思う。これからも頑張してほしい。

※ 結果の表示方法

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組んでいるが成果が十分でない

D 取り組みが不十分である

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

<健康なからだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組み状況 | 自己評価 |
|------------------|--|------|
| ① 保育の計画性 | 指導計画に基づいて週案を作成し、日々の反省を計画の見直しに生かし、子どもの実態に即した順応性のあるものになっている。 | B |
| ② 保育のあり方・幼児への対応 | 日々の終礼の場を、情報の交換や共有の場として生かし、教師が客観的に子どもを理解する力を養うようにしている | B |
| ③ 教師として資質、能力、適正等 | 教師としての自覚と責任を持ち、前向きに努力する姿が見られる。また、組織の一員として、真面目に保育に取り組んでいる。 | A |
| ④ 保護者への対応 | 保護者の意見や要望に真摯に耳を傾け、適切に対応するように努力している。また、学年だより、「Jキッズ」連絡帳などを活用し、個々の子どもの生活や活動の様子を、詳しく伝えるように努めている。 | A |
| ⑤ 地域の自然や社会との関わり | 保育体験などを通して、近隣の中・高校生との交流を深めることができた。また、「キッズハウス」を通して子育て支援センター的な役割も果たしている。ただ、地域の「人や自然」との関わりは、比較的少ない。 | B |
| ⑥ 研修と研究 | 静私幼、浜私幼の研修会に積極的に参加し、終礼の場で定期的に報告会を実施している。日々の仕事に追われ、教材等の研究に十分時間が取れていない現状もある。 | B |
| ⑦ 外部アンケート | 全体としては、肯定的な回答が98%近くを占め、園の教育現状に理解を得ているが、反省すべき点や要望もあり、今後、改善に努力していきたい。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・新園長を迎え、新・転任職員二人が配属されたことを機会に、園の教育方針や活動内容を再確認し、共通理解を深めることができた。
- ・終礼や職員会議では、日々の保育や行事計画について話し合わせ、活動の意義や実施方法について再確認し、原点に立ち戻りマンネリ化を改善することに心掛けた。
- ・運動会やお遊戯会では、本年度は、浜北アリーナ、アクトシティ中ホールへと会場が変更になり、内容や方法の大幅な変更を求められたが、職員が一丸となり、実施内容の充実を図ることができ、充実度の高い有意義な行事となった。
- ・園庭の遊具の安全な使用を図り、園児のけがや事故を防止するために、職員の見届けエリアを決め、交代制で安全確認を実施することにした。
- ・消防の監査を機に、園舎内の安全点検と不要物の撤去を再度実施することにした。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取組み方法 |
|---|--|
| 教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解 | ・教育課程から指導計画の内容の共通理解を図り、環境や子どもの実態に即した計画の編成に取り組んでいく。 ・園内研修の時間を十分確保し、教師の質の向上に努めていく。 |
| 園庭などでの児童の遊び・安全管理の共通理解と徹底 | ・園庭の遊具や園舎内の安全に対する点検と意見交換をし、職員間の共通理解を深め、安全な環境を整える。 ・災害時の避難誘導など、それぞれのケースに応じた訓練を定期的実施する。また、防災器具取扱いの訓練をする。 |
| 保護者や地域住民に幼稚園の活動をより良く知っていただくための広報活動などの充実 | ・幼稚園の活動を、ホームページや園だより、「Jキッズ」学年版などで知らせると共に、地域の未就園児に対し体験や園庭開放などを行い、子育て支援にもつなげる。 ・交流会や保育体験などを計画し、近隣の小・中・高校との交流を深め、地域の特色を教育活動に生かす。 ・夏祭りや作品展、バザーに地域の方々を招待し、交流を深めると共に地域との関わりをより大切にする。 |

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

<健康なからだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取組み状況 | 関係者評価 |
|------------------|------|--|-------|
| ① 保育の計画性 | B | 指導計画に基づいて週案を作成し、日々の反省を計画の見直しに生かし、子どもの実態に即した順応性のあるものになっている。 | A |
| ② 保育のあり方・幼児への対応 | B | 日々の終礼の場を、情報の交換や共有の場として生かし、教師が客観的に子どもを理解する力を養うようにしている。 | A |
| ③ 教師として資質、能力、適正等 | A | 教師としての自覚と責任を持ち、前向きに努力する姿が見られる。また、組織の一員として、真面目に保育に取り組んでいる。 | A |
| ④ 保護者への対応 | A | 保護者の意見や要望に真摯に耳を傾け、適切に対応するように努力している。また、学年日より、「Jキッズ」連絡帳などを活用し、個々の子どもの生活や活動の様子を、詳しく伝えるように努めている。 | A |
| ⑤ 地域の自然や社会との関わり | B | 保育体験などを通して、近隣の中・高校生との交流を深めることができた。また、「キッズハウス」を通して子育て支援センター的な役割も果たしている。ただ、地域の「人や自然」との関わりは、比較的少ない。 | B |
| ⑥ 研修と研究 | B | 静私幼、浜私幼の研修会に積極的に参加し、終礼の場で定期的に報告会を実施している。日々の仕事に追われ、教材等の研究に十分時間が取れていない現状もある。 | B |
| ⑦ 外部アンケート | A | 全体としては、肯定的な回答が98%近くを占め、園の教育現状に理解を得ているが、反省すべき点や要望もあり、今後、改善に努力していきたい。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・新園長を迎え、新・転任職員二人が配属されたことを機会に、園の教育方針や活動内容を再確認し、共通理解を深めることができた。
- ・終礼や職員会議では、日々の保育や行事計画について話し合わせ、活動の意義や実施方法について再確認し、原点に立ち戻りマンネリ化を改善することに心掛けた。
- ・運動会やお遊戯会では、本年度は、浜北アリーナ、アクトシティ中ホールへと会場が変更になり、内容や方法の大幅な変更を求められたが、職員が一丸となり、実施内容の充実を図ることができ、充実度の高い有意義な行事となった。
- ・園庭の遊具の安全な使用を図り、園児のけがや事故を防止するために、職員の見届けエリアを決め、交代制で安全確認を実施することにした。
- ・消防の監査を機に、園舎内の安全点検と不要物の撤去を再度実施することにした。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取組み方法 |
|---|---|
| 教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解 | ・教育課程から指導計画の内容の共通理解を図り、環境や子どもの実態に即した計画の編成に取り組んでいく。 ・園内研修の時間を十分確保し、教師の質の向上に努めていく。 |
| 園庭などでの児童の遊び・安全管理の共通理解と徹底 | ・園庭の遊具や園舎内の安全に対する点検と意見交換をし、職員間の共通理解を深め、安全な環境を整える。 ・災害時の避難誘導など、それぞれのケースに応じた訓練を定期的実施する。また、防災器具取扱いの訓練をする。 |
| 保護者や地域住民に幼稚園の活動をより良く知っていただくための広報活動などの充実 | ・幼稚園の活動を、ホームページや園だより、「J-キッズ」学年版などで知らせると共に、地域の未就園児に対し体験や園庭開放などを行い、子育て支援にもつなげる。 ・交流会や保育体験などを計画し、近隣の小・中・高校との交流を深め、地域の特色を教育活動に生かす。 ・夏祭りや作品展、バザーに地域の方々を招待し、交流を深めると共に地域との関わりをより大切にする。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・安全管理面で、たった1%でも「問題あり」と評価している保護者がいらっしやることを真摯に受け止めなければならない。問題点を明確にし素早く対応することが、保護者の信頼につながる。
- ・職員の「自己評価」を、年一回ではなく学期に一回にしてはどうか。それが職員の自信に繋がり校内研修にも生かされるのではないかな。
- ・小学校の参観会や児童会などに行くと、アソカの子はきちんとして落ち着いている。幼稚園で学んだ3年間は、正解だった。子どもが成長してから、後々成果となって表れている。
- ・幼稚園は、人間としての生き方の一番の基本を学ぶところだ。地元の良さを生かし、地域と力を合わせて、より良い園にしていってほしい。

平成27年度 自己評価書

平成27年12月3日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ち合いながら豊かな感性と健康な心身が育つ為に、教師が常に環境構成や関わり等に重点を置き研究実践し、自身の保育力アップを図る。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組状況 | 自己評価 |
|----------------------|--|------|
| ① 保育の計画性 | 各学年毎の指導計画を参照し、また、一日一日の保育を検証反省しながら保育実践した。 | B |
| ② 保育のあり方 ・ 幼児への対応 | 園児の健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事等職員間の情報交換を密にし、チーム保育の充実を図った。 | A |
| ③ 教師として資質 能力、適正等 | 概ね良好であるが、教員個人が抱える苦手分野の克服、保育を支える人間力アップへのスキルを一層高めたい。 | B |
| ④ 保護者への対応 | 園からのお知らせや便りは、文言数を増やし、より明瞭な内容のものを配布し、保護者の正しい理解を促した。 | A |
| ⑤ 地域の自然や 社会との関わり | 子育て支援活動「キッズハウス」の様子をブログで毎週更新し好評を得ている。利用者も昨年より増加傾向にある。 | A |
| ⑥ 研修と研究 | 浜私幼共同研修「運動あそび」で研究協力園となり他園（8園）と研究実践しているが、日々の保育業務が多忙で研究への取り組み時間があまり持てなかった。 | B |
| ⑦ 外部アンケート | 全ての項目で概ね良好と認められた。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない
B 達成されている D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園児、教職員とも恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、池エリア・芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。恵まれた環境を生かしながら、より楽しい保育や新しい保育を創造し、保育実践に取り組みながら、園庭環境や保育者のかかわり方を再考察した。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|----------------|---|
| 行事の見直し | 3大行事（運動会・遊戯会・作品展）の運営全般をさらに良いものになるよう検証する。 |
| 保護者対応 | 保護者ニーズの変化を調査考慮し、園運営全般において考察してみる。また、良識ある親心の学びの場として、随時に子育て情報の発信や啓発を図る。 |
| 総合的な安全対策と防災対策 | 大津波を想定した避難訓練を定期的に行う。屋上避難場所や備蓄品の整備を図り、防災対策の尚一層の充実を図る。 緊急メール配信の定期的テスト配信の実施。 |
| 職員個々の人間力をアップする | 社会人としてのスキルや立ち居振る舞い、また、社会性を高めながら、常に自身のアンテナを高くし、結果、楽しい保育・新しい保育を創造し実践できる保育者を目指す。 |

平成27年度 学校関係者評価書

平成27年 12月11日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ち合いながら豊かな感性と健康な心身が育つ為には、教師が常に環境構成や関わり等に重点を置き研究実践し、自身の保育力アップを図る。

評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 理由 | 関係者評価 |
|--------------------|------|--|-------|
| ① 保育の計画性 | B | 各学年毎の指導計画を参照し、また、一日一日の保育を検証反省しながら保育実践した。 | B |
| ②保育のあり方 ・幼児への対応 | A | 園児の健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事等、職員間の情報交換を密にし、チーム保育の充実を図った。 | A |
| ③教師として資質 能力、適正等 | B | 概ね良好であるが、教員個人が抱える苦手分野克服、保育を支える人間力アップへのスキルを一層高めたい。 | B |
| ④保護者への対応 | A | 園からのお知らせや便りは、文言数を増やし、より明瞭な内容のものを配布し、保護者の正しい理解を促した。 | A |
| ⑤地域の自然や社会との関わり | A | 子育て支援活動“キッズハウス”の様子をブログで毎週更新し好評を得ている。利用者も昨年より増加傾向にある。 | A |
| ⑥研修と研究 | B | 浜私幼共同研修『運動あそび』で研究協力園となり他園（8園）と研究実践しているが、日々の保育業務が多忙で研究への取り組み時間があまり持てなかった。 | B |
| ⑦外部アンケート | A | 全ての項目で概ね良好と認められた。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園児、教職員とも恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、池エリア・芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。恵まれた環境を生かしながら、より楽しい保育や新しい保育を創造し、保育実践に取り組みながら、園庭環境や保育者のかかわり方を再考察した。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------------------|---|
| 行事の見直し | 3大行事（運動会・遊戯会・作品展）の運営全般をさらに良いものになるよう検証する。 |
| 保護者対応 | 保護者ニーズの変化を調査考慮し、園運営全般において考察してみる。また、良識ある親心の学びの場として、随時に子育て情報の発信や啓発を図る。 |
| 総合的な安全対策と 防災対策 | 大津波を想定した避難訓練を定期的に行う。屋上避難場所や備蓄品の整備を図り、防災対策の尚一層の充実を図る。 緊急メール配信の定期的なテスト配信の実施。 |
| 新しい保育の創造 | 社会人としてのスキルや立ち居振る舞い、また、社会性を高めながら、常に自身のアンテナを高くし、結果、楽しい保育・新しい保育を創造し実践できる保育者を目指す。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・毎日、子どもは喜んで登園し、親子共々、居心地の良い幼稚園です。
- ・子どもの年月齢に応じ、意図的に機会を見ながら多少の負荷をかけ、課題を設けて育ててくれていて、ありがたいです。
- ・教職員全員（アシスタント・乗務員も含め）で、子どもの育ちを見てくれていて感謝します。
- ・絵画活動（クラス参観）では、発想豊かでのびのびと描く子供たちがステキでした。
- ・近隣小学校へ入学した美波幼稚園児は、他園卒に比べて落ち着いて小学校生活を送っている。挨拶も良くでき、けじめのある生徒が多い。これは、幼稚園時代のメリハリのある生活の効果だと思います。
- ・父母の会活動（意識）、保護者の感覚、等、多岐に渡っているのが難しい時代になっている。

平成 27 年度 自己評価書

平成 27 年 12 月 7 日
アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携
○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組状況 | 自己評価 |
|---------------------|---|------|
| ① 保育の計画性 | 環境構成の工夫がたりないと感じているので、計画にも詳しく示していく。 | B |
| ② 保育のあり方 幼児への対応 | 一人ひとりの幼児理解を深めるために、保育者同士の連携をより一層深めていく。 | A |
| ③ 教師として資質 能力、適正等 | 保育者としての責任と自覚を持っているが、より効果効率性を考えたい。 | B |
| ④ 保護者への対応 | とても丁寧に行えているが、担任していない子の保護者とより積極的に関わりたい。 | B |
| ⑤ 地域の自然や 社会との関わり | 地域の公園など園外保育へ出掛ける場所に関して、アンテナを高くしていく。 | B |
| ⑥ 研修と研究 | 普段の生活から保育のヒントが得られるよう意識出来ている。 | A |
| ⑦ 外部アンケート | 各項目で「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が平均 98%と良好であった。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・ 今年度もPMT活動に大変多くの保護者に参加いただき、内容も充実し、いろいろな「人」と交流が出来た。
- ・ 「家庭」との連携は、とても丁寧に行っている。担任していない保護者との関わりや職員間での情報交換をより積極的にする。
- ・ 子どもたちは期待を持って登園してきているが、「意欲」がつながる環境構成について工夫していく必要性を感じている。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------------|---|
| 幼稚園全体で個々の「家庭」との連携を深める。 | 担任していない子やその保護者との関わりをより積極的に行い、教師間での情報交換を増やすよう意識する。 |
| 環境構成の工夫 | 園内研修で環境構成の工夫しているところを発表し合うなど園全体で取り組んでいく。 |

平成 27 年 12 月 17 日

アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
 ○ 人と人との触れ合い ○家庭との連携
 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へとつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取組状況 | 関係者評価 |
|--------------------|------|--|-------|
| ① 保育の計画性 | B | 環境構成の工夫がたりないと感じているので、計画にも詳しく示していく。 | A |
| ②保育のあり方 幼児への対応 | A | 一人ひとりの幼児理解を深めるために、保育者同士の連携をより一層深めていく。 | A |
| ③教師として資質 能力、適正等 | B | 保育者としての責任と自覚を持っているが、より効果効率性を考えたい。 | B |
| ④保護者への対応 | B | とても丁寧に行っているが、担任していない子の保護者とより積極的に関わりたい。 | A |
| ⑤地域の自然や社会との関わり | B | 地域の公園など園外保育へ出掛ける場所に関して、アンテナを高くしていく。 | A |
| ⑥研修と研究 | A | 普段の生活から保育のヒントが得られるよう意識出来ている。 | A |
| ⑦外部アンケート | A | 各項目で「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が平均98%と良好であった。 | A |

* 結果の表示方法 A 十分達成されている
 B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が充分でない
 D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・今年度もPMT活動に大変多くの保護者に参加いただき、内容も充実し、いろいろな「人」と交流が出来た。
- ・「家庭」との連携は、とても丁寧に行っている。担任していない保護者との関わりや職員間での情報交換をより積極的にする。
- ・子どもたちは期待を持って登園してきているが、「意欲」が繋がる環境構成について工夫していく必要性を感じている。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------------|---|
| 幼稚園全体で個々の「家庭」との連携を深める。 | 担任していない子やその保護者との関わりをより積極的に行い、教師間での情報交換を増やすよう意識する。 |
| 環境構成の工夫 | 園内研修で環境構成の工夫しているところを発表し合うなど園全体で取り組んでいく。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・先生方、丁寧すぎるくらいよく見て下さっていると思います。少しぶっただけでも、バスの先生がお知らせして下さい、その後、担任の先生も電話をくださる丁寧さにびっくりしました。親切丁寧な対応して下さいことに間違いはないと思うので、続けていただきたい。
- ・送り迎えで園によく伺いますが、いつの時も先生方の優しい雰囲気と温かい笑顔はすごいなと思います。時として子どもと目線を合わせて指導している姿もあり、安心して預けさせていただいています。
- ・今年からおゆうぎ会がはまホールからアクトシティ浜松大ホールに変更になり、時間が短い中で、先生方の工夫と愛情が感じられる会で、様々な場面でも色々行っていただけてすばらしいです。
- ・「Let's try」のテーマのように新しいことへの挑戦をこれからもたくさん実行して頂きたい。
- ・小さなトラブルに対しても、常に保護者への対応を丁寧にして頂けているので、感謝している。
- ・先生が大好きな子どもたちが多く、いつも笑顔でのびのび遊ぶ姿をたくさん見ることが出来た1年でした。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組状況 | 自己評価 |
|----------------|--|------|
| ① 保育の計画性 | 教育課程に基づき、指導計画の見直しを行い、週案は子どもの実態にあわせて順応性のあるものになっている。 | B |
| ②保育のあり方・幼児への対応 | 毎日園での出来事を終礼で情報を共有する機会を設け、子どものことについて話し合うことを心掛けている。 | A |
| ③教師として資質能力、適正等 | 教師としての自覚と責任感を持って行動する姿が見られる。組織の一員としても行動でき、非常に真面目に保育に取り組んでいる。 | A |
| ④保護者への対応 | 個々の子どもの様子を、連絡帳・電話などを使って伝えることを常に心がけている。時々保護者からの連絡ミスがあるので緊張感を持って対応することを心掛ける。 | A |
| ⑤地域の自然や社会との関わり | 地域の小学校の参観会にも出席し、進学に向けての連絡会にも参加しているが、十分とは言えない現状です。地域の自然との関わりは"ももはなの森"で遊ぶことで十分と思われる。 | B |
| ⑥研修と研究 | 県振興協会や、浜私幼、子育て支援などの研修会には積極的に参加し、研修の成果を保育に生かすことを実践している姿が見られる。 | A |
| ⑦外部アンケート | 県振興協会や、浜私幼、子育て支援などの研修会には積極的に参加し、研修の成果を保育に生かすことを実践している姿が見られる。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

今年度も4月当初にアシスタント職員を含めた全職員で、百花幼稚園の教育活動に対する共通認識を持つことで、順調に新年度のスタートが切れた。
年間の活動の立案でマンネリ化しないように、活動の意義ややり方について十分に検討していくことを心掛けることにより、例年と違った活動の内容を立案し、子どもたちがより楽しむことができた。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------------------|--|
| 幼児理解をより深め、子どもたちの発達に沿った援助を行う。 | 幼児の発達段階を十分に考慮し、子どもたちの気持ちに共感しながら、子どもたちの興味や関心を持っていることを保育に生かし、毎日の生活や活動が、楽しく、より深い内容になっていくことを心掛ける。 |
| “ももはなの森”での園児の遊び・安全管理の共通理解 | 年毎に職員の異動があるが、全職員に“ももはなの森での遊び”が、必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、園児の安全確保に努めていく。 |
| 防災の充実 | 自動車を使える地震引渡し訓練を行うことで、保護者にくいざという時には、どう行動すればいいのかを考慮してもらえる機会になるので、今後も、その点を保護者が注目できるように訓練を継続していきたい。 また、消防署からの特例認定施設としての資格が維持できる努力を継続していく。 |

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
 *健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題 (学校評価の具体的な目標や計画)

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取組状況 | 関係者評価 |
|----------------------|------|--|-------|
| ① 保育の計画性 | B | 教育課程に基づき、指導計画の見直しを行い、週案は子どもの実態にあわせて順応性のあるものになっている。 | A |
| ② 保育のあり方 ・ 幼児への対応 | A | 毎日園での出来事を終礼で情報を共有する機会を設け、子どものことについて話し合うことを心掛けている。 | A |
| ③ 教師として資質 能力、適正等 | A | 教師としての自覚と責任感を持って行動する姿が見られる。組織の一員としても行動でき、非常に真面目に保育に取り組んでいる。 | A |
| ④ 保護者への対応 | A | 個々の子どもの様子を、連絡帳・電話などを使って伝えることを常に心がけている。時々保護者からの連絡ミスがあるので緊張感を持って対応することを心掛ける。 | A |
| ⑤ 地域の自然や社会との関わり | B | 地域の小学校の参観会にも出席し、進学に向けての連絡会にも参加しているが、十分とは言えない現状です。地域の自然との関わりは"ももはなの森"で遊ぶことで十分と思われる。 | A |
| ⑥ 研修と研究 | A | 県振興協会や、浜私幼、子育て支援などの研修会には積極的に参加し、研修の成果を保育に生かすことを実践している姿が見られる。 | A |
| ⑦ 外部アンケート | A | 県振興協会や、浜私幼、子育て支援などの研修会には積極的に参加し、研修の成果を保育に生かすことを実践している姿が見られる。 | A |

*結果の表示方法 A 十分達成されている
 B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が充分でない
 D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

今年度も4月当初にアシスタント職員を含めた全職員で、百花幼稚園の教育活動に対する共通認識を持つことで、順調に新年度のスタートが切れた。
 年間の活動の立案でマンネリ化しないように、活動の意義ややり方について十分に検討していくことを心掛けることにより、例年と違った活動の内容を立案し、子どもたちがより楽しむことができた。

5 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------------------|--|
| 幼児理解をより深め、子どもたちの発達に沿った援助を行う。 | 幼児の発達段階を十分に考慮し、子どもたちの気持ちに共感しながら、子どもたちの興味や関心を持っていることを保育に生かし、毎日の生活や活動が、楽しく、より深い内容になっていくことを心掛ける。 |
| “ももはなの森”での園児の遊び・安全管理の共通理解 | 年毎に職員の異動があるが、全職員に“ももはなの森での遊び”が、必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、園児の安全確保に努めていく。 |
| 防災の充実 | 自動車を使える地震引渡し訓練を行うことで、保護者に「いざという時には、どう行動すればいいのか」を考えてもらえる機会になるので、今後も、その点を保護者が注目できるように訓練を継続していきたい。 また、消防署からの特例認定施設としての資格が維持できる努力を継続していく。 |

6 学校関係者評価委員会からのコメント

年齢毎、月毎の教育カリキュラムに沿って子ども達の保育に取り組んでいることを知り、先生達の熱心さを改めて感じました。
 園長先生のお話しにあった「小学校探検」、いろいろと大変な面もあり実現することは厳しいとは思いますが、自分の入る学校を事前に見学出来たら、子ども達も安心して入学準備、心の準備が出来るのではないのでしょうか、検討して頂けたら嬉しいです。
 子ども一人に対してたくさんの先生が関わって、情報の共有をしている事で密な保育を考え、作業をしてくれる事、また乗務員さんが子ども達の安全面を考え、作業をしていただいていることにとっても感謝しています。